

美術科

昨年度の授業改善プランの検証

<知識・技術>

基本的な実技課題を繰り返し実施することで、鉛筆を用いた技法を定着させることができた。(1年生)。「立体」作品の題材を変更し、身近な人体をモチーフとしたことで、立体的な表現ができるようになったが、立体物を見て、立体的な絵画表現することは習得できていない。(2年生)。基礎的な、鉛筆や色鉛筆を用いた絵画技法は身に付いているが、絵具に関する表現技法は課題である。(3年生)。

<思考・判断・表現>

身近なテーマを取り入れた課題を実施したことで、細部や質感の違い等の表し方に創意工夫が見られた(1年生)。立体表現では、身近な人体をモチーフに選んだことで、人体構造や、比率、筋肉の付き方など理解しながら表現することができた(2年生)。15才の自身を見つめ、自画像を制作したことから作品の主題は制作者の感情が感じられるものとなっていた(3年生)。どの学年も、発想・構想や、鑑賞には苦手意識がある。

<主体的に学習へ向かう姿勢>

振り返りシートで、本時の進捗状況を具体的に振り返ることで、見通しをもって取り組むことができた(1～3年生)。

生徒の様子、学力について

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">分 析</p>	<p><知識・技術> 鉛筆の濃淡や絵具の混色等の技法練習を重ね、作品制作をしている(1年生)。立体的な表現が難しく、物を平面的に捉えてしまう生徒が多数いる(2年生)。静物作品で習得した濃淡表現を、人物作品に応用することが難しい(3年生)。</p> <p><思考・判断・表現> 主題を見出した後に、発想・構想を練ることが難しい(1～3年生)。鑑賞で、特徴に気付くことや、印象をまとめることに、向上の余地がある(1～3年生)。</p> <p><主体的に取り組む態度> 技法の練習や、作品制作に熱心に取り組むことができています(1～3年生)。課題の意図を理解し、意識して進めることに課題がある(1～3年生)。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">課題</p>	<p><知識・技術> 習得した基礎技法の活用(1～3年生)。</p> <p><思考・判断・表現> 自分の思いから主題を発想・構想する(1～3年生)。鑑賞を通して、美術作品の見方・感じ方を深める(1～3年生)。</p> <p><主体的に学習へ向かう姿勢> 何を意識して取り組むのか、どのように進めたいかを考える(1～3年生)。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">授業改善ポイント</p>	<p><知識・技術> 実技は習得した基礎技法の活用に重点を置き、参考作品を見せ指導する。美術に関するレポートや課題を、タブレットを活用して取り組ませる(1～3年生)。</p> <p><思考・判断・表現> 鑑賞活動での意見交換を増やし、発想・構想を練る上で大切な、見方や感じ方を深めさせる(1～3年生)。</p> <p><主体的に学習へ向かう姿勢> 授業毎のめあてや、振り返りシートの記入例を掲示物等で具体的に示し、構想段階や、制作段階で考えるべき視点について理解させ、取り組ませる(1～3年生)。</p>